

心ゆたかに



小中一貫教育目標「自分らしくともに かがやく」 重点目標「自分のコトバを とどけよう」

【 みんなが笑顔になった 想像する愉しさ 】 落語

会場が笑顔いっぱいになりました。芸術鑑賞教室として、落語家の雷門音助さん、入船辰之助さんをお迎えし、楽しい時間が創り出されました。

扇子や手ぬぐいなどの小道具を巧みに使って、聴く側の想像力を掻き立てる職人技に、子どもたちの歓声が挙がりました。早速、家に帰ってご家族のみなさんに落語の真似をした子どもたちもいたようです。こうした豊かな言葉の体験が、子どもの心の根を伸ばしていくのだと思います。



○落語はこんなに面白いんだと思いました。家族のみんなにも見てほしかったです。今度自分で扇子や手ぬぐいを使って落語をやってみたいです。

○たくさん笑いました。とても面白くて楽しかったです。人を笑わせることは、とてもすごいことだと思いました。

○目線、表情、声を使い分け、それぞれの人物になりきっていたし、人だけではなく、生き物にもなりきっていてすごいなあと思いました。物を使っていろいろな物に見立てることで、自分で想像することが面白いと思いました。

○どの話も自然と笑いが出てきました。僕も将来は、みんなを爆笑の嵐に巻き込めるような落語家になってみたいと思いました。

【 6年生代表が意見表明 共に社会を創るパートナー 学校運営協議会 】

富士市子どもの権利条例の中に、「意見表明権」があります。今回は、6年生代表児童と学校運営協議会の委員、そして教職員が話し合う場を設定しました。6年生から、以下の3点の意見が出されました。

- ① 地域の方々に感謝を伝えていくためにも、交流の機会をもっと増やしたい。
- ② 6年生の学習でリーダーとして考えたこと、学んだことを一緒に実現できるようにしたい。
- ③ 学校をよりよくするために、先生方や地域の方々、僕たちで、様々な行事や取り組むことについて話し合っていきたい。

委員の皆様は、6年生の言葉を真剣に聴き、温かな言葉を返してくださいました。これからも、私たち大人は子どもの意見に真剣に耳を傾け、共に社会を創るパートナーとして行動していきたいと思います。



背伸びしたような秋の空に、わたがし雲が浮かんでいます。時には子どもと一緒に空を見上げながら、語り合いたいです。

校長 四條 秀樹

～ 体験の秋 ～

学習や運動をはじめ、様々な活動がたくさん行われ、子どもたちは、貴重な体験を積み重ねていております。学年ごとにどのような体験活動をしているのか、ご家庭での話題にしてみてください。



10/27 起震車・煙体験